

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105735
法人名	株式会社 ツクイ
事業所名	ツクイ松山南江戸グループホーム
所在地	松山市南江戸2丁目1-29
自己評価作成日	平成27年3月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>3年以上の職員が10名以上いるためサービス安定と質が高まってきたと感じています。また個々の状態にあった個別ケアを重視した支援を行っています。ご家族様の面会も頻繁にあり信頼関係も構築できていると感じています。</p>
--

<p>事業所は、町内会に加入しており、管理者は総会にも出席している。回覧板にて、地域行事の情報を得て、利用者も参加できるよう支援しており、地区の文化祭には、利用者の作品を展示し、当日は、数名で見学に行かれた。又、町内運動会には、4~5名の利用者で参加された。4月の事業所9周年祭に向けて、チラシを回覧板で回してもらっている。地方祭には、職員が子供みこしと一緒に歩いたり、事業所の居間までみこしを入れてもらい、神主さんに祝詞をあげてもらって利用者はとても喜ばれたようだ。小学生が授業の一環で事業所の見学に来た際には、利用者や折り紙をしたり、クイズやゲームで交流できるように企画された。</p> <p>「自宅へ帰りたい」という気持ちが強い方には、ご家族と話し合い、月一回ご自宅へ帰ることができるよう介護計画を立てて、職員が送迎して支援している。ご自宅でかわいがっていた犬を月2~3回、ご家族が連れて来てくれており、居室には、愛犬の写真を飾って支援するケースもある。お孫さんの結婚式出席に向けて、前日にはご家族が準備した洋服を着ることを手伝い、式場まで職員が送迎して支援したようなケースもある。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 松山南江戸グループホーム

(ユニット名) みかん

記入者(管理者)

氏名 本田 豊

評価完了日 H27年 3 月 13 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 朝の朝礼時、唱和している。十人十色の理念の基個別ケアに力を入れている。	
			(外部評価) 事業所理念と行動指針を玄関、各ユニットの居間に掲示している。管理者は、理念「十人十色、様々な人生に沿った自立支援」を鑑み、「一人ひとりに合わせてプランを立て支援したい」と話していた。事業所のパンフレットにも理念を大きく明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の運動会、文化祭、地方祭、地域防災訓練など積極的に参加している。また夏祭り、周年祭では炊き出しやレクレーションを企画し地域交流を行っている。	
			(外部評価) 事業所は、町内会に加入しており、管理者は総会にも出席している。回覧板にて、地域行事の情報を得て、利用者も参加できるよう支援しており、地区の文化祭には、利用者の作品を展示し、当日は、数名で見学に行かれた。又、町内運動会には、4～5名の利用者で参加された。4月の事業所9周年祭に向けて、チラシを回覧板で回してもらっている。地方祭には、職員が子供みこしと一緒に歩いたり、事業所の居間までみこしを入れてもらい、神主さんに祝詞をあげてもらって利用者はとても喜ばれたようだ。小学生が授業の一環で事業所の見学に来た際には、利用者と折り紙をしたり、クイズやゲームで交流できるように企画された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワークに参加している。随時、認知症相談、見学などの対応も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 月二回必ず行っている、運営推進会議を通じて民生委員や町内会長との繋がりも出来ており開かれたサービスを提供している。	
			(外部評価) 会議には、市職員、民生委員、町内会長が参加している。会議は、45分を予定しており、事業所から、活動報告を行い、活動予定も知らせて、質疑応答形式で話し合っているが、現在は、時間を持って余す状況のようだ。ご家族には、会議案内をしておらず、議事録も報告していない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議にも介護保険課の職員が来て頂けるのでホームの実際見て確認されている。分からないことなどはその都度担当者に連絡を取っている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市職員は、他事業所の避難訓練の例を紹介したり、熱中症予防や手洗い等、食中毒の予防等について話してくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ユニットの扉は安全確保のためロック式になっているが、日中はなるべく解除して開かれた居住空間作りに勤めている。その他身体拘束は行っていない。	
			(外部評価) 玄関は自動ドアになっている。ユニットの入口は、ロック式で職員が暗証番号を入力して開錠するようになっている。事業所内には、「身体拘束廃止委員会」が設置されているが、近々は開催されていない。職員は、利用者が「自由に外に出られない」ことを認識しているが、浴室やトイレが玄関から遠く、安全のためには止むを得ないと話していた。管理者は、身体拘束廃止委員会を再開したいと考えている。利用者が自由で安全に暮らせるように、今後も関係者と話し合いながら環境整備に工夫を重ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新規採用時に研修。また年間研修にも組み込み、勉強している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者と職員、必ず2名で行っている。説明を行い、納得を頂いた上で契約を結ぶようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 会社で顧客満足度調査の実施。またご家族が来られたときは職員が要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 管理者の交替時には、家族会であいさつしたり、手紙にてお知らせした。管理者は、ご家族との信頼関係を作っていくように、ご家族の来訪時を捉えて暮らしやケアへの要望や意見を聞けるように話しかけている。毎月、事業所新聞「みなみかぜ」を発行しており、写真入りで行事の様子を報告し、来月の予定を知らせている。又、担当職員が、利用者個別に「今月のご様子」を手書きしている。年2回、家族会を開催しており、活動報告を行ったり、今後の方針を説明している。「介護保険について」の勉強会を行ったこともある。今後、開設9周年祭開催時の餅まきに使用するお餅は、ご家族が手伝いに来てくださる予定となっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月2回カンファレンスと、年2回の個別面談で意見を聞くように努めている。	
			(外部評価)	
			ユニットごとの意見や要望については、月1回会議を持ち、ユニットリーダー、ケアマネジャー、管理者で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年に一度の昇給の実施(条件あり)また有休も取れる体制作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			定期的に法人内研修に参加。また来年度は毎月外部研修への参加も計画している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			確立できていない。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			管理者と計画作成で事前アセスメントを実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントの実施と事前訪問による聞き取り。初期は特に時間をかけて接するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初期は特に時間をかけて接するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の趣味・嗜好・ADLに合わせた計画書を作りサービス提供を行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は月に1度暮らしの様子お便りで送っている。変化時その都度ご家族と連絡をとり、意向の把握に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人やご家族に聞き取りを行い、ニーズがあれば支援できる旨を伝えている。 (外部評価) 「生まれたところへ行きたい」と言われる利用者の方には、実家の近くまでドライブできるよう支援したり、「自宅へ帰りたい」という気持ちが強い方には、ご家族と話し合い、月1回ご自宅へ戻ることができるよう介護計画を立てて、職員が送迎して支援している。ご自宅でかわいがっていた犬を月2~3回、ご家族が連れて来てくれており、居室には、愛犬の写真を飾って支援するケースもある。お孫さんの結婚式出席に向けて、ご家族が準備した洋服を着ることを手伝い、式場まで職員が送迎して支援したようなケースもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、クラブ、合唱の実施している。楽しく暮らせるように職員も毎日話しの橋渡しを行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後の支援はありません。(逝去の為)	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の意思に添えるようにアセスメントを実施し、意向や要望を取り入れた計画書となるようにしている。 (外部評価) 前回の外部評価後、アセスメント様式を新たにして利用者の情報収集に取り組んでいる。様式の右上部分には利用者の顔写真を貼り付けて、「一番会いたい人は」「行きたい所」「やりたいこと」「望むこと」等の項目を設け、利用者の思いや暮らし方の希望等の情報を集め、職員で共有できるようにしていた。管理者は今後、用紙の見直しや追加等も検討して、介護計画につなげやすいよう、改善していきたいと話していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できることは積極的一緒に行うように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の状況に添った介護計画を作成、ケアを実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			月2回カンファレンスで話し合っている。	
			(外部評価)	
			アセスメントシートをもとに、ご家族やご本人の希望を踏まえて、ケアマネジャーが介護計画を立てている。職員会議で話し合いながら、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月～1年で見直している。日々の介護記録用紙には、短期目標を記しており、共有して実践できるようにしている。ケアマネジャーは、「楽しみを生かした計画の作成」を大切にしている。	4月に法人で記録書式の変更がなされることになっている。管理者は、その際を捉えて、「一人ひとりに合わせた、利用者の役割や出番のある支援に取り組めるよう、プランを見直していきたい」と考えている。アセスメントの情報を介護計画につなげて、今後さらに利用者主体の支援を実践していかれてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護計画に短期目標を入れて日々確認している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ご本人やご家族より要望があった場合は可能な範囲で取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			日々、散歩や買い物を取り入れて地域にでている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)		
				その都度かかりつけ医、ご家族と連絡を取って医療連携を行っている。	
			(外部評価)		
			協力医の往診が月2回ある。週1回、訪問看護ステーションから看護師が来られて、利用者のバイタルサインのチェックを行い、健康管理してくれている。又、必要があれば、主治医に報告して対応してくれている。		
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)		
				訪問看護ステーションと契約し週一回来ていただき必要な医療が受けられるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)		
				入院中の面会や家族との連絡をとり状態が落ち着きたい退院できるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)		
				かかりつけ医とご家族と相談しながら取り組んでいる。	
			(外部評価)		
			入居時に、「重度化した場合の対応に係る指針」の説明を行い、ご家族の了承を得ている。終末期には、改めてご家族の意向をうかがい、相談しながら支援に取り組んでいる。前日まで入浴や食事をしてレクリエーションも楽しまれ、夜間休んでいる間に状態が変わり、亡くなったような利用者の事例があった。職員は、かかりつけ医に連絡する等して対応した。		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急対応表を掲示し確認しながら行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 夜間想定と地域との災害訓練を年1回ずつ行っている。	管理者は「マニュアルや訓練から課題を見出し、一から見直したい」と話していた。又、年2回の避難訓練だけでなく、災害対策について、もっと話し合う機会を持ちたいと話していた。さらに、いろいろな災害や場合を想定して訓練を繰り返し、利用者、職員の安心・安全を確保できるような体制を作っていかれてほしい。
			(外部評価) 6月には事業所内で夜間の火災を想定した避難訓練を実施した。訓練を実施して、「2階ユニットの車椅子を使用する利用者をどう避難させるか」が課題に上がったようだ。11月には、消防署の協力を得て、地震発生を想定した訓練を行った。又、地区の防災訓練時には、地域の方の協力のもと、利用者も地域の避難所まで避難することを体験した。事業所には、緊急時に鳴らすサイレンを設置しており、音が鳴れば、近所の方が駆け付けてくれるようになっている。災害緊急時には、地域の方達を受け入れる旨を運営推進会議等で伝えている。事業所には、3日分の食糧の備蓄やカセットコンロ等を用意している。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇・マナー研修を定期的に取り入れて勉強している。	
			(外部評価) 行動指針に、「同じ目線になって声掛けします」「不快に感じる言葉は使いません」と示しており、接遇研修時には、日々のケアを振り返っている。入浴の同性介助の希望があれば応じている。トイレのドアが開いている時には、そっと閉めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の要望を聞きだせるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人の予定表を作成し支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) ご自分で服が選べるように声かけしている。 必要に応じて買い物にも一緒に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 週1回料理クラブの実施。 季節に合わせたイベント食も提供している。	
			(外部評価) 業者から届く食材を使用して、事業所で調理している。週1 回、食事を手作りする「料理クラブ」の日を設けている。その 日は、両ユニットの利用者と職員が交流しながら、一緒に食 事する日になっている。調査訪問日は、「料理クラブ」の日 で、利用者は三角巾とエプロンを着けて、野菜を切ったりサ ラダを混ぜたりして、食事作りにかかわっていた。夏場は、駐 車場でそうめん流しを行ったり、時にはバーベキューや焼き 芋等もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) かかりつけ医や看護師の助言を基に食事提供している。 体重も毎月量っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 口腔状況に応じた支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	必要な方は排尿チェック表で把握している。 状態はカンファレンスで確認、支援行っている。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	ヤクルトを決まった時間に飲んだり、ヨーグルトを提供している。 毎日、運動支援やレク活動も実施している。また便座に座る支援も行っている。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	好きなかたや、清潔面で必要な方には多く入浴できるようにケアプランにも入れ支援している。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	日中の活動量を増やし、夜間ゆっくり眠れるように支援している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 指示通り服薬介助を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 季節間のあるイベントを暮らしのなかに取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望を伺い定期的に外出している。	
			(外部評価) お天気の良い日には、駐車場に出て過したり、近所を散歩できるよう支援している。又、買い物に出かけた際には、利用者がカートを押してくださるようだ。「洋服が買いたい」と希望があれば、職員が付き添って支援している。お正月には、近くの神社に初詣に出かけた。季節ごとに梅や蓮等、お花を見に出かけたり、飛行機の発着を見に飛行場に行くこともある。今月末には、近くの公園にお花見に出かける予定となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) トラブル防止のため立替金で行っている。ご本人の必要品は一緒に買いに行くように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に合わせて実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
				毎月季節に合わせた飾り付けを行っている。
			(外部評価)	
			ユニット間の行き来は、利用者の状態に応じてエレベーターと階段を使い分けて支援している。階段の壁には、行事や外出時の写真が掲示されていた。居間からは、庭の桜の木や手作りの池の様子が見える。菜園には、ネギ、ブロッコリー、キャベツ等が植えられていた。テーブルには、利用者の方が散歩時に摘んできた菜の花とレンゲが活けられていた。ペダル漕ぎして運動している方もみられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
				テレビ、ソファを設置し団欒できるように心がけている。
			(外部評価)	
			ご本人の使用していた物を持ち込んで頂き使用している。好きな物を壁に貼ったり職員が支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
				塗り絵や切り絵が好きな方は、居室の壁いっぱい自作品を貼っており、「これ、私が全部したんよ」と説明してくださった。ご家族の方が、飾り棚にアートフラワーや写真、小物等を飾っている居室もあった。テレビやダンス、ソファを置いている方もあった。ご夫婦で入居している方は、居室で一緒にお茶を飲むようなこともあるようだ。
			(外部評価)	
			適切な福祉用具の使用や、転倒リスクをイメージしながら環境整備しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
				適切な福祉用具の使用や、転倒リスクをイメージしながら環境整備しています。
			(外部評価)	